

コンテキスト (Context)

稚拙な事例で恐縮だが、車で交差点を左折する際に、歩行者が居なくなるまで停止していたところ、早く右折したい対向車が右折を強行し、こちらが左折をするよりも先に行ってしまった。おまけに、後部座席の男女がこちらを睨んできた。これは、道路交通法第37条「交差点優先車妨害違反」である。イラッとした。

しかし、過去の同様のケースではイラッとしなかった事もある。今回はなぜイラッとしたのか。調査したところ、ある心理学者の「同じ刺激を受けたとしても、どのようなコンテキスト (Context: 状況・背景・前後関係) で刺激を受けたかにより、感情が異なる。」という、当たり前の様だが、改めて言わねると首肯してしまう情状を得た。

当時のコンテキストを振り返ると、要するに、心身が疲労気味であったのである。世の中の全員が敵に思える時もあるが、世の中の全員が味方に思える時もある。感情は信用ならぬ。感情の制御には限界がある。制御できたと思っても後に副作用が出る事がある。

感情を制御するよりも、感情を突いた時の自分を素直に受け止める事の方が、今後のためになると思われる。折に触れて自分の発する言葉に耳を傾けるなせして、なるべく良からぬ感情を抱かずに済む様な状況に心身を置きたいものである。

江幡 淳